

茨城県

育成会だより

第 148 号

発行日 令和4年12月10日
 発行 一般社団法人
 茨城県手をつなぐ育成会
 編集 広報委員会
 事務局 〒310-0851 水戸市千波町1918
 セキショウ・ウェルビーイング福祉会館内
 ☎ 029-243-3838
 FAX 029-243-3854
 URL <http://www.ibaikuseikai.com/>
 e-mail iba-ikuseikai@bz03.plala.or.jp



お弁当作り作業



事業所よりの下請け作業



グループホームでのお菓子作り



地域との交流「たんぼぼショップ」

統合保育を実践していた幼稚園の空き教室で活動を始めてから二十七年、障害を持つ皆さんも自分の可能性を信じ、就労を目指して自分の個性を生かした作業に取り組み、自立した生活への意欲を持つ事は大切と考え、就労移行支援と就労継続支援B型の多機能事業所の運営に取り組みで参りました。しかし、利用者の皆さんも平均年齢が三十五歳となり、就労を目指す事よりも地域の中でコミュニケーションを取りながら、安定した生活を目指すという事の方が大切になって来ているようにも感じています。

また、生活の見直しを考えた時に食育の重要性も感じるようになり、十六年前から取り組んできた就労支援事業としての日替わり弁当の製造販売に加え、数年前から幼稚園の給食弁当にも取り組むようになりました。さらに昨年からはグループホームの運営も始め、「生活する上で何が大切か？」を改めて考えている今日この頃です。これからも利用者の皆様のニーズ、目標の変化に真摯に向き合い、次の課題に取り組みで行きたいと考えております。

連絡先：日立市西成沢町二丁目9番5ビル
 電話：0294-26-0000

特定非営利活動法人

ワークスたんぼぼを支える会

理事長 木村 統

育成会長活動日記

第1回

コロナ時代とともに

茨城県手をつなぐ育成会 会長 永井 立雄

第56回手をつなぐ育成会関東甲信越大会が10月22日に長野県長野市で開催されました。今回のテーマは「地域で暮らす」でした。かつて知的障害者はいわゆる「施設」で生活することが一般的でしたが、ノーマライゼーション理念のもと、国は政策の方針を転換し地域で暮らすことがこれから一般的になっていきます。今回の長野大会では県が運営していた大規模施設「西駒郷」からグループホーム等地域での生活へ移行したケースがいくつか紹介されました。茨城県でもこれからこのような流れが加速されていくものと思われれます。

さて、本会で実施したアンケートによると、自宅で親と一緒に生活している障害者が多いことがわかりました。この場合、地域で暮らしているとは言えるのですが一つ大きな問題があります。それは親の高齢化です。いままで「親なき後」をテーマとして数々の研修を実施してきました。主に成年後見制度や遺産相続がテーマでしたが、これからは「住まい」のことも親が元気なうちに考えていかなければならない重要な観点です。

様々な理由で親が面倒を見ることができなくなってからではなく、より早い時点で我が子の将来の住まい先を見つけることがとても重要です。グループホームには様々なタイプがありますし、他の利用者や支援者との相性なども把握しておく必要があります。障害者本人がスムーズに自宅以外の生活に移行していくためには、家族以外の人たちから支援を受けることに慣れておくことも大切です。

ところで、障害者の巣立ちを支援するためには、私たち親の努力だけでなく地域に受け皿が存在しなければなりません。地域で暮らすことを目指して家を出ても、面会や帰省もままならない遠くのグループホームで生活するのでは本末転倒といえるでしょう。知的障害者が住み慣れた地域で安心して暮らすために親は何をすればいいのか、そのためにはそれぞれの地域に必要なのか、それぞれが暮らす地域に十分な支援の体制を整えるよう社会や行政に訴えていくことが育成会の大きな役割になってきました。



社会福祉法人「菜の花会」を視察して

研修委員会委員長 嶋田 みち子

千葉県成田市の広大な敷地内に複数の事業所が点在している社会福祉法人「菜の花会」は、緑に囲まれ、四季折々の花が咲き乱れる自然豊かな場所にありました。今回は研修委員6名で7月13日に、9つある事業所のうち、しもふさ学園（入所）と菜の花ホームズ（GH）を視察しました。まず初めに、入所施設であるしもふさ学園を見学しました。

しもふさ学園といえば、自閉症者の支援に特化している施設であることは有名ですが、住まい自体も各利用者の特性に合わせて設計されていました。

例えば、対人過敏である利用者の部屋は、全ての窓が曇りガラスであったり、部屋に個人用の玄関がついていたりしており、**障害特性や個々の配慮すべき点に特化した住まいとなっていました**。個人の部屋の中に、本人が落ち着く小部屋が作られている場合もありました。

食事は必ず利用者全員が揃ってとらねばならないわけではなく、食堂の中の仕切られたスペースで食べる利用者や個室で食べる利用者など、各利用者が心地よく食事ができる工夫がされていました。それらは従来の施設のイメージではなく、一人一人の利用者に合わせて作られた空間でした。

次にGHの菜の花ホームズのうち、強度行動障害に対応している「まなむすめホーム」「メゾン・ドゥ・コルザ」を見学しました。

女子棟である「まなむすめホーム」では、リビングの床下に錦鯉が泳いでいるのが見え、癒しの空間が広がっていました。住まいはゆったりとくつろげる空間であるべきだという理念が詰まった建物であり、いずれのGHもまるで友達同士のシェアハウスのような楽しい雰囲気でした。

職員の方の話では、GH入所者には国の家賃補助の他に成田市の補助もあり、事業所だけでなく地域も一体となって利用者を支援する体制が整っているとのことでした。

支援の方法では、自閉症者の社会自立を促す「TEACCHプログラム」が活かされており、利用者が毎日を生き生きと過ごす工夫がなされていました。

例えば、日常の行動（作業に行く、入浴する等）ごとにポイントを集めてチョコと交換したり、ポイントを換金して週に1度コンビニへ買い物に行ったりなど、利用者が楽しみと達成感を同時に感じられる支援が行われていました。

視察の最後に理事長より、利用者を支える職員の福利厚生が充実している点も、本法人の大きな特徴であるとの話がありました。

働きやすく風通しの良い職場環境を整えることにより、職員は安心して業務に専念することができます。そのような職員の姿勢は利用者の安心・安全・満足にもつながり、好循環を生み出すと考えられます。利用者との幸せのために、建物などのハード面も、支援方法や職員の福利厚生などのソフト面も、いずれも充実した法人でした。



施設全景



施設長とのスナップ

令和3年度「会員の基本情報把握アンケート調査」の概要について

権利擁護委員会委員長 大坪 浩

令和3年度もコロナ禍で活動が制限されましたが、その中で県育成会では、まずは各地域育成会の会員の方の状況を把握して、今後の活動方策を検討するため、令和3年12月からアンケート調査を実施しました。各会長をはじめ皆様のご協力に感謝いたします。

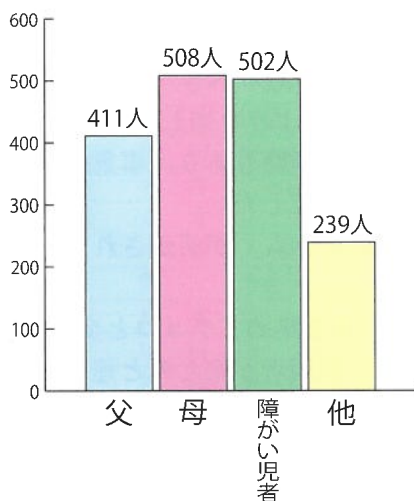
ご回答をいただいた588名の会員の方の家族や障がい児者の状況（基本情報）は以下のとおりです。この結果内容やいただいた意見をさらに分析して、今後の育成会活動に役立てたいと思います。

【アンケート調査の回答結果内容】

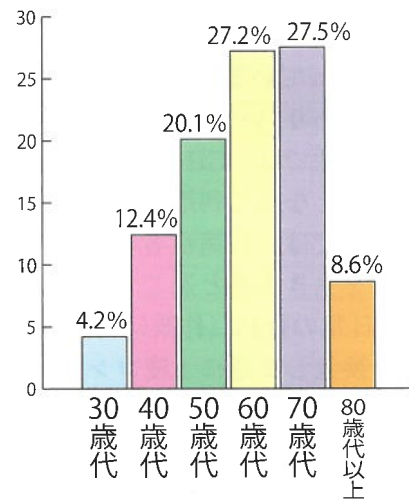
※回答未記入及び複数の障がい児者のいる家族もあるため、各項目の合計は一致しません。

1 家族について

(1) 家族構成 合計1,660人

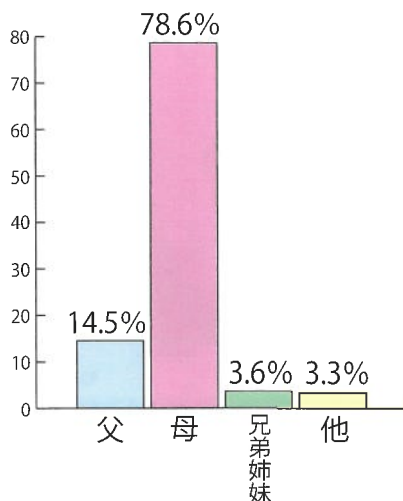


(2) 回答者の年齢 合計578人



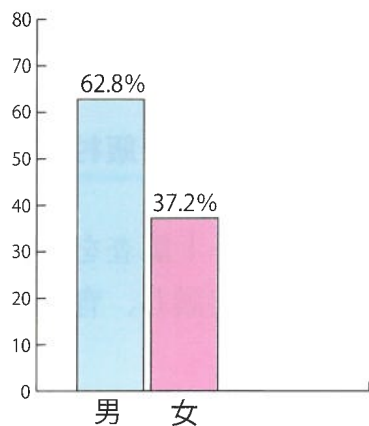
(3) 障がい児者との関係（複数回答あり）

合計607人

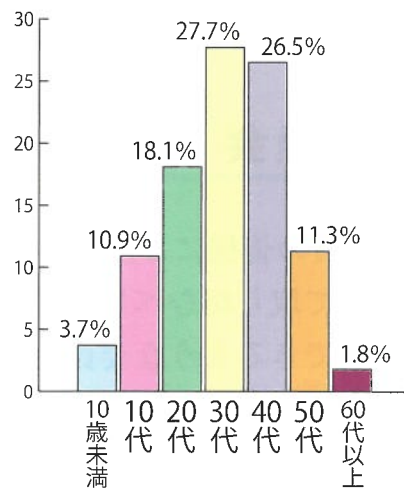


2 障がい児者について

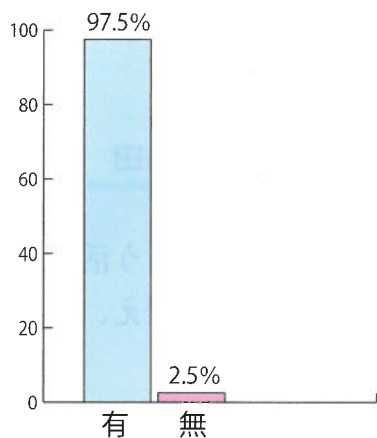
(1) 性別 合計541人



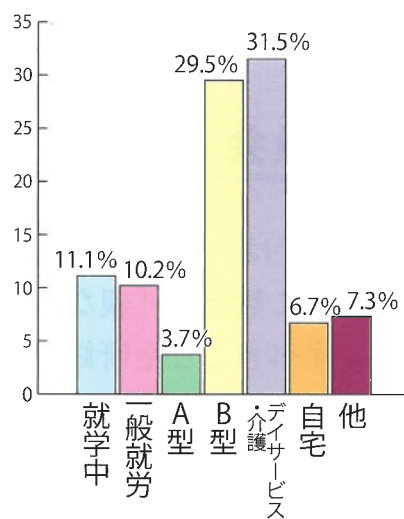
(2) 年齢 合計595人



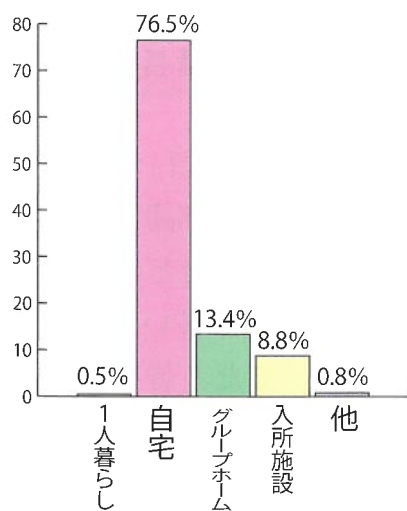
(3) 手帳の有無 合計598人



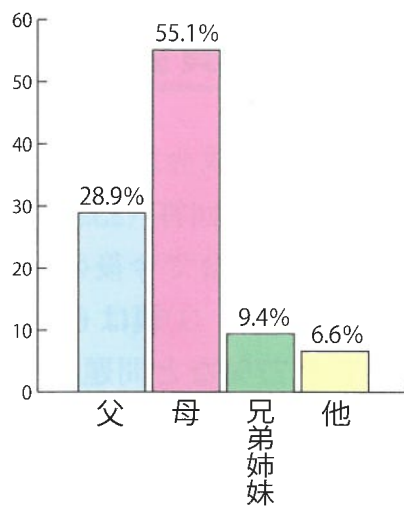
(4) 障がい児者の日中の主な活動の場 (複数回答あり) 合計628件



(5) 障がい児者の夜間の主な生活の場 (複数回答あり) 合計604件



(6) 障がい児者の主な支援者 (複数回答あり) 合計922件



各委員会の活動方針

総務委員会

総務委員会委員長 飯村 晴代

昨年、会員の皆様にご回答いただいた会員基本情報アンケート調査を基に、県育成会として取り組むべき問題点や課題を各委員会の方々と協議し、育成会員の意識改革ができるような委員会活動を目指します。

- ・各地域育成会の地域生活支援拠点の確認
- ・相談事業所の積極的活用
- ・すべての障害者が安心して生活できる場を確保するため、障害基礎年金の全員給付、個々に合わせた生活支援の拡充
- ・市町村が運営する成年後見支援センターの把握と研修

研修委員会

研修委員会委員長 嶋田 みち子

研修委員会では、会員の皆様により良い福祉情報をお伝えするよう活動して参りました。ここ数年は「親なき後」の障害を持つ子の暮らしを見据え、今親ができること、すべきことを研修してきました。

「親なき後」の考え方は家族構成や障害の種類・程度によって異なり、正解がありません。正解がないからこそ、親・家族はより多くの情報を集め、その中から我が子に合ったものを選び出し、将来への対策を講じる必要があります。

今後も研修委員会では、皆様の情報収集の一端を担っていければと考えます。

権利擁護委員会

権利擁護委員会委員長 大坪 浩

昨年12月の「育成会だより」に添付した「会員の情報把握調査票」は各会の会員2,280人中、588人の回答（25.8%）がありました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

本年8月の委員会で今後の対応を協議し、10月の総務委員会との合同委員会で項目別に検討し、①親は60～70歳代、子は30～40歳代が多い、②子の夜間生活は自宅が77%など問題点が浮き彫りになりました。また、皆様からのご意見は、KJ法*で集約しながら、さらに検討を加え、今後の講習会に繋げてまいります。

*アイデアや思いつきを効率良く、整理・グループ化しまとめる手法です。



地域交流委員会

地域交流委員会委員長 中村 正子

コロナ禍で特別支援学校や地域との交流などが制限されて、早3年。この間委員会としては、まず育成会を知ってもらうために「手をつなぐ育成会をご存じですか？」のパンフレットを作成し、県内の特別支援学校、児童相談所、保健所などに配布をしました。パンフレットには育成会のあゆみや活動などを紹介しています。

行動規制が解除されたこともあり、これから、特別支援学校の保護者の方々と懇談会を通して、さらに育成会を知ってもらえるような活動をしたいと思います。これには、育成会会員の皆様のご協力も必要です。地域の方々と交流事業をされている方は、当委員会へもお知らせいただけるとありがたいです。

本人活動委員会

本人活動委員会委員長 清水 学

令和4年度になっても新型コロナウイルス感染拡大の影響により、交流会やイベント活動が、すべて中止となり非常に残念でした。

委員会の活動が、いつでも再開できるように「ひとりだち2021年改訂版」の本を購入して、この本をできるだけ多くの本人はじめ支援員と、学校の先生方、生徒や保護者の人に読んでもらい、その感想を書いてもらったり、みんなで話し合いをしたいと思っています。

広報委員会

広報委員会委員長 徳永 一成

戦国時代徳川家康の家臣、本多作左衛門重次が、長篠の戦の際陣中より妻に送った手紙『一筆啓上、火の用心。お仙泣かすな、馬肥やせ。』の如く。

誤字・脱字・写真のアングルなどに、注意を払いつつ、原稿執筆者の持ち味を活かし、簡潔明瞭な広報誌を作成し、広報メンバーとは情報把握を共用し同じフィールド（土俵）に立ちたいと思います。

一人での100歩より、百人の1歩を地道に進めて行きたいと思っています。

一般社団法人 茨城県手をつなぐ育成会 委員会委員名簿 (令和4年度・5年度)

委員会	氏名	所属	備考
総務	飯村 晴代	つくばみらい市手をつなぐ育成会	委員長
	永井 立雄	日立市手をつなぐ親の会	
	中村 正子	ひたちなか市障害児者育成会	
	嶋田 みち子	石岡市手をつなぐ育成会野ばらの会	
	大坪 浩	利根町手をつなぐ育成会	
	立川 益信	NPO法人茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会	
	大高 滋	古河市心身障害児(者)父母の会	
	徳永 一成	稲敷市手をつなぐ育成会	
研修	清水 学	本人活動委員会	
	嶋田 みち子	石岡市手をつなぐ育成会野ばらの会	委員長
	吉川 佳代子	潮来市障がい者児親の会	
	飯村 晴代	つくばみらい市手をつなぐ育成会	
	後藤 真紀	つくば市手をつなぐ育成会	
	菅谷 久美子	結城市心身障害児(者)父母の会	
	高安 米子	ひたちなか市障害児者育成会	
	堀江 由枝	水戸手をつなぐ育成会	
	櫻井 詩子	土浦市手をつなぐ育成会	
広報	川崎 喜美江	NPO法人茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会	
	花田 三男	神栖啓愛園保護者会	
	徳永 一成	稲敷市手をつなぐ育成会	委員長
	杉山 正美	小美玉市中心障がい児者父母の会	
	大島 みのる	桜川市手をつなぐ育成会	
権利擁護	露久保 真依子	常陸大宮市手をつなぐ育成会	
	田口 美博	水戸手をつなぐ育成会	
	大坪 浩	利根町手をつなぐ育成会	委員長
	永井 立雄	日立市手をつなぐ親の会	
	中野 敏	北茨城市手をつなぐ育成会	
	関 多恵子	常陸大宮市手をつなぐ育成会	
地域交流	根本 順子	水戸手をつなぐ育成会	
	中村 晴美	若葉園父母の会	
	黒澤 義明	ひたちなか市障害児者育成会	
	中村 正子	ひたちなか市障害児者育成会	委員長
	井上 圭一	土浦市手をつなぐ育成会	
	露久保 真依子	常陸大宮市手をつなぐ育成会	
	大久保 淑子	東海村心身障がい児者親の会	
	西口 規子	笠間市手をつなぐ育成会	
	田口 美博	水戸手をつなぐ育成会	
本人活動	根目沢 浩幸	かすみがうら市手をつなぐ育成会	
	大高 滋	古河市心身障害児(者)父母の会	
	伏見 千夏	小美玉市中心障がい児者父母の会	
	矢野 清	NPO法人茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会	
	清水 学	本人活動委員会	委員長
	大竹 正美	本人活動委員会	副委員長
	伊藤 広也	本人活動委員会	副委員長
	深谷 知史	本人活動委員会	書記
	佐藤 宗智	本人活動委員会	書記
	真行寺 浩和	本人活動委員会	会計
	大坪 浩	利根町手をつなぐ育成会	支援者
	飯村 晴代	つくばみらい市手をつなぐ育成会	〃
鈴木 胖	北茨城市手をつなぐ育成会	〃	
中野 敏	北茨城市手をつなぐ育成会	〃	
根本 順子	水戸手をつなぐ育成会	〃	
大島 みのる	桜川市手をつなぐ育成会	〃	

特別支援学校の今

茨城県内の特別支援学校を順次紹介していきます

県立大子特別支援学校（大子町）

「**だ**れもが **い**きがいをもち **と**もに学び **く**らせる 地域とともにある学校」

本校の児童生徒は37名（小学部24名、中学部13名）です。自然豊かな環境下で人情あふれるコミュニティとともに、いきがいと学びを双方で高め合う循環型教育を推進します。

【本校の教育活動】

○豊かな心を育む交流活動

近隣の上小川小学校、南中学校との学校間交流は、3年ぶりに対面実施できました。また、駅前の清掃活動にも、小学校児童と地域住民と一緒に取り組んでいます。（写真1）

○自助・共助力を高める防災訓練

様々な災害を想定し、現実的で実効的な自助・共助力を高めるため、年間通じて各種避難訓練を実施しています。特に校内宿泊をともなう防災訓練では、防災士によるワークショップや、先進のVR技術を使った体験シミュレーションにも取り組みました。（写真2）

○ボランティア「森の子協力隊」の活躍

「見に来るだけでも支援です」を合言葉に意欲とボランティア精神のある住民や学生が森の子協力隊として登録しています。個々の特技や関心に応じた支援は、同時にご自身の生涯学習にも繋がっており、本校の目指す循環型教育の象徴となっています。（写真3）

○本物に触れ本物から学ぶ地域人財活用

地域には高度な知識や技術、感性や特技を持っている沢山の人がいます。染色、漆、紙漉き、林檎栽培、書道、舞踊、アウトドア等、その分野の達人からの生きた学びを充実させるため、積極的に地域人材と連携した授業づくりを推進しています。（写真4）



写真1 学校間交流



写真2 VR体験シミュレーション



写真3 森の子協力隊



写真4 体験授業

旅立ちの君に

茨城県手をつなぐ育成会本人活動委員会

①今までやってきたこと

- ・全日本手をつなぐ育成会全国大会（東京）平成23年11月5日（土）、6日（日）
- ・第47回関プロ茨城大会（つくば国際会議場）平成25年9月28日・29日



②交流会で講師の先生を呼んで勉強したこと

- ・平成30年11月25日
- NPO法人 WELL'S 副理事 堀江美里 氏
- 県庁障害福祉課職員 2名
- 茨城労働局職員

③「ひとりだち」(2021年改訂版)

この本を読んでみんなと話しあい
しましょう

この本は各単会に配布済みです。



書籍のご案内

自閉スペクトラム症
マイペースなきみに



監修：井上雅彦
編集：全国手をつなぐ育成会連合会
イラスト：マリマリマーチ

◎A5判 / 104頁
◎定価 1,430円（本体 1,300円＋税10%）
◎2022年11月発行
◎978-4-8058-8765-1

オールカラー!

【目次】
はじめに
自閉スペクトラム症の特徴と理解
はじめに / ASD 診断のある人、ない人 / ASD の原因 / ASDのある人は思っている？ / ASDのある子どもの子育てへの支援 / 読者のみなさんへ
すったもんだの日々
主な登場人物
1 学校
2 「何があっても学校は行くもの」(など全6話)
3 「お父さんの投稿」(など全5話)
4 行事・外出(全10話)
5 家・日常生活(全18話)
<コラム>
・仮えるポイントは「具体的に」と「視覚的に」
・体験を重ねて不安をなくす 他2本

全国手をつなぐ育成会連合会の機関誌「手をつなぐ」に好評連載中の4コマまんが「毎日すったもんだ」が一冊の本になりました。

自閉スペクトラム症のある子の個性と向き合いながら、笑いあり涙ありの「すったもんだ」な家族の日常を、4コマまんがで切り取りました。学校、病院、外出など場面ごとのユニークなエピソードに、クスツツしたり、多様な個性を笑感したり。解説付きで、かかわりの参考にもなる一冊です。



編集後記

このたび、広報委員になりました水戸手をつなぐ育成会の田口美博です。年齢的には新しくはない右も左もわからない新人の広報委員ですが、会員の皆様のお手元に届く「育成会だより」が親しみやすいものとなるよう頑張りたいと思います。また、これが時勢を反映した内容になるようベテランの広報委員の足を引っ張らないよう努めますので、温かい目で見守ってくださるようお願いいたします。

(美)